

おもいやりの心を育てよう

脇野町小学校では、縦割り班活動や身近な福祉・ボランティア活動を通して、人や動物の思いやる豊かな心の育成を目指しています。

<縦割り班活動>

全校が28の縦割り班に分かれ、清掃や児童会行事等で活動しています。7月には七夕イベントが行われ、クイズや短冊書きをしました。上学年が下学年をリードしながら、仲良く、協力して活動する姿が見られました。

<全校児童による花いっぱい活動>

校舎周辺には学年の花壇やプランターがあり、きれいな花を咲かせています。夏休み前には、環境委員会が花殻つみボランティアを募集し、多くの児童が参加しました。また、プランターをバス停や駐在所、福祉施設などへ届け、地域の皆さんに楽しんで

ながおか しりつわきの まちしょうがっこう 長岡市立脇野町小学校

らっています。 <高齢者疑似体験> 4年生は、総合的な学習の時間に高齢者疑似体験を行いました。体験を通して、お年寄りの特性や気持ちを理解し、相手の立場に立った言動について考えることができました。今後も、今できることを考えながら、児童の思いやりの心をさらに育てていきたいと思います。



七夕イベント～短冊を書く子どもたち～

おもいやりの心を育てる飼育・栽培活動

山古志小学校では、「飼育活動や栽培活動を通して、生き物を大切にする気持ちを育てる」という福祉の活動目標があります。飼育活動では、2年生がウサギの飼育をしています。毎日当番を決めて、掃除を行い、休み時間にはウサギに声を掛けて一緒に散歩をするなどの世話をしています。3・4年生はイモリ、モツゴなど多くの魚類、両生類などの生き物がいる「生き物ロード」の管理・飼育をしています。朝、「お世話タイム」の時間を設定して、餌をあげたり、水槽をきれいにしたりしています。また、山古志中学校と合同でひまわり畑と児童玄関前の丸花壇に植えた花の植栽活動に取り組んでいます。異年齢交流もでき、苗植え後の水やりも毎朝交代で声を掛け合いながら行っています。

ながおか しりつやまこ ししょうがっこう 長岡市立山古志小学校

今後も活動を続けながら自然の尊さや命の大切さ、山古志を愛する心を育てていきたいと思います。



苗植えの様子

もくてき意識をもったボランティア活動

中之島中学校では「特別支援学級の児童生徒との交流活動とおして、思いやりの心を育てる」「ベルマークの収集活動や美化活動などの奉仕活動を通じ、進んでボランティア活動に取り組む意欲を育てる」「地域の依頼に応じて地域行事に参加し、地域に貢献する態度を育てる」を目標に福祉活動に取り組んでいます。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、地域行事が中止になっていることもあり、校内で行う福祉活動が中心となっています。福祉委員会の活動で今年度意識していることは「目的意識をもった活動を行う」ということです。その取り組みを紹介いたします。

7月に校内では「新型コロナウイルスと闘う医療従事者への募金活動」を行いました。この活動は福祉委員会と図書委員会が合同で行いました。はじめに、募金活動をするにあ

ながおか しりつなかの しまちゅうがっこう 長岡市立中之島中学校

たり、図書委員会が活動の趣旨を呼びかける冊子を作成しました。この冊子を通じ、生徒の活動に対する目的意識の向上を目指しました。ただ呼びかけられたから募金するのと、自分の募金が「誰かのためになる」と事前に理解したうえで募金に参加するのは、心構えが大きく異なります。活動の趣旨に賛同してくれた多くの生徒や教職員が、今回の募金活動に自主的に参加してくれました。

今後も「なぜこの活動をするのか」という目的を明確にしながら、校内・校外問わず福祉活動に励んでいきます。



目的意識を高めるための掲示物、冊子の一部

越路中学校のボランティア活動

当校では、ボランティア訪問を実施しています。この活動は毎年夏休みを利用して、地域の福祉・保育施設などで奉仕活動を行うものです。今年度は3日間で計58人の生徒が参加しました。

新型コロナウイルス感染予防のため、利用者である幼児やお年寄りとの交流活動は制限されましたが、白山保育園で写真のようにあらかじめ範囲を決めて草取りを行うことができました。生徒の感想には「暑い中大変でしたが、草をむしるときれいになっていき、子どもたちが気持ちよく使えると思うと嬉しいです」「今年度は新型コロナウイルスで大変だったので、そんな中、お手伝いをして、誰かの役に立てたので良かったです」など、人の役に立つことや感謝されることへの喜びとやりがいを実感することができ、ボランティア活動そのものへの関心が高まった様子で

ながおか しりつこしし ちゅうがっこう 長岡市立越路中学校

た。このような情勢下でも、感染予防対策を行いながら受け入れてくれた地域の保育園や福祉施設の温かい対応と、多くのことを学ぶことができたボランティア活動の提供に心から感謝しています。今後、学校生活の中でも実践していけるように、委員会呼び掛けしていきます。



白山保育園で草取りを行う生徒

中越高校吹奏楽部との「コラボ演奏」

当校では、中越高校吹奏楽部を招いて「ふれあいコンサート」を行っています。昨年度は、同年代の生徒との主体的な交流をねらい、「コラボ演奏」を企画しました。中越高校の皆さんの「ライオンキングメドレー」に当校生徒も加わり、一緒に発表を完成させることになりました。曲を聴いてイメージを膨らませて「かっこよくダンスしたい」「一緒に演奏したい」「動物のコスプレをしたい」など、一人一人がどんなふうに参加したいか考え、ダンス、打楽器、小道具作りなどのグループに分かれて練習を重ねました。本番では、それぞれの学年・コースごとにダンスあり、振付ありなど様々な考えを凝らした発表で中越高校の演奏と共演することができました。終了後、生徒からは「一緒にコラボして楽しかった」「自分の役割が發揮できた」など、大満足の声が上がりました。

ながおか しりつこうとうそうこう し えんがっこう 長岡市立高等総合支援学校

中越高校の皆さんからも「初めての経験だけどとても良かった」「振付を考えてもらって嬉しかった」と言ってもらいました。「コラボ演奏」を通して互いの気持ちを交流することや、「もっとこうしたい!」と自分たちで主体的に考えて活動することができました。



ふれあいコンサート「コラボ演奏」の様子

「小さなこと」を続けていくと……

日常の小さな生活習慣に注目してみましょう。はじめは「面倒だなあ」「大変だなあ」と思ったことでも、続けていくうちに自然とできるようになってきます。例えば「早寝早起き」について考えてみます。もし、長期休暇中に「遅い時間に寝て、遅い時間に起きる」という毎日を繰り返していると、早起きするのに大変な思いをしなければなりません。学校や仕事がはじまって生活のリズムが整ってくと、早起きができるようになってきます。最近、感染症対策として取り組んでいる「手洗いやうがい」「咳エチケット」「すれ違うときの距離(ソーシャルデスタンス)」「食事の際は料理に集中し、おしゃべりは控えめに」などの新しい生活様式についても、実践を積み重ねることで、私たちの暮らしの中に少しずつ根付いてきました。ボランティアなどの社会貢献活動も同じことが言えます。周りの人が幸せになるために、特別なことをするのではなく、身近にある小さなことから始め、普段の暮らしの中でその実践を積み重ねることが大切なのです。